

# Asia Indicators

発表日: 2020年10月30日(金)

豪・インフレ率、プラスに転化も依然目標を下回る (Asia Weekly(10/23~10/30))

～韓国及び台湾では生産底入れの動きが一段と強まっている～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部  
 主席エコノミスト 西濱 徹 (TEL: 03-5221-4522)

## ○経済指標の振り返り

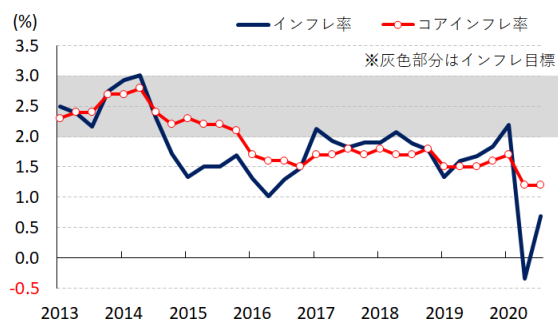
発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
10/23(金)	(台湾)9月鉱工業生産(前年比)	+10.73%	--	+3.60%
10/26(月)	(シンガポール)9月鉱工業生産(前年比)	+24.2%	+2.5%	+15.4%
10/27(火)	(ニュージーランド)9月輸出(億NZドル)	40.1	--	44.1
	9月輸入(億NZドル)	50.2	--	46.9
	(韓国)7-9月実質GDP(前年比・速報値)	▲1.3%	▲1.9%	▲2.7%
	(香港)9月輸出(前年比)	+9.1%	--	▲2.3%
	9月輸入(前年比)	+3.4%	--	▲5.7%
10/28(水)	(豪州)7-9月消費者物価(前年比)	+0.7%	+0.7%	▲0.3%
	(タイ)9月製造業生産(前年比)	▲2.75%	▲4.71%	▲9.05%
	(マレーシア)9月輸出(前年比)	+13.6%	+5.5%	▲2.9%
	9月輸入(前年比)	▲3.6%	▲3.8%	▲6.5%
10/30(金)	(韓国)9月鉱工業生産(前年比)	+8.0%	+1.7%	▲2.6%

(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

## [豪州]～エネルギー価格上昇、保育料無償化終了でインフレ率はプラスに転じるも、依然目標を下回る展開～

28日に発表された7-9月の消費者物価は前年同期比+0.7%となり、前期(同▲0.3%)から2四半期ぶりのプラスに転じた。前期比も+1.57%と前期(同▲1.89%)から2四半期ぶりの上昇に転じているものの、生鮮品食料品で物価上昇圧力が強まる動きがみられる一方、加工食品の物価に軒並み下押し圧力が掛かったことで食料品価格は下振れしているほか、国際原油価格の底入れの動きを反映してガソリン価格は大きく上振れするなど、生活必需品の物価を巡る動きはまちまちの状況にある。なお、同国はトリム平均値ベースの消費者物価をコアインフレ率としているが、当期は前年同期比+1.2%と前期(同+1.2%)から横這いで推移しており、中銀(豪州準備銀行)が定めるインフレ目標(2~3%)を下回る水準に留まる。前期比は+0.4%と前期(同▲0.1%)から2四半期ぶりの上昇に転じており、エネルギー価格の上昇に伴う輸送コストの上振れを反映して幅広く財価格に押し上げ圧力が掛かる動きがみられたほか、新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)対策として実施された保育料無償化政策の終了に伴い教育関連を中心とするサービス物価が押し上げられたことも影響している。他方、国際金融市場での通貨豪ドル高に伴い輸入物価に下押し圧力が掛かりやすい状況となっており、インフレ率は下振れしやすい展開が続いている。

図1 AU インフレ率の推移

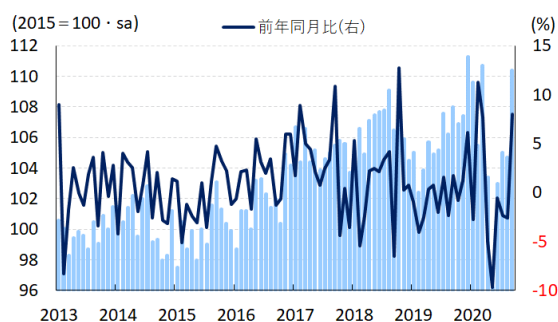


(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

### [韓国]～経済活動正常化や世界経済の回復期待を受けて輸出財を中心とする生産底入れの動きが鮮明に～

30日に発表された9月の鉱工業生産は前年同月比+8.0%となり、前月(同▲2.6%)から6ヶ月ぶりに前年を上回る伸びに転じた。前月比も+5.44%と前月(同▲0.29%)から2ヶ月ぶりの拡大に転じている上、中期的な基調も拡大傾向を強めるなど底入れが進んでいる。分野別では、公的部門で一進一退の動きがみられるものの、鉱業部門や建設部門で生産底打ちの動きが強まっているほか、製造業の生産も底入れの様相を強めるなど幅広い分野で生産拡大の動きがみられる。衣料品をはじめとする軽工業関連の生産には弱含む動きがみられるものの、主力の輸出財である自動車など輸送用機器関連、半導体をはじめとする電子部品関連、電気機械関連など輸出財を中心に生産底入れの動きが強まっており、こうした動きに呼応するように素材及び部材関連の生産にも底入れの動きがみられるなど、川下から川中、川上に向けて生産拡大の動きが広がりを見せている。平均設備稼働率も73.9%と前月(69.7%)から4.2ptと大幅に上昇して6ヶ月ぶりの水準となっているほか、新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)の影響が一巡しつつある。出荷・在庫バランスの動きもすべての分野で大幅に改善する動きがみられるなど、経済活動の正常化に加え、世界経済の回復期待の高まりが生産を押し上げる動きに繋がっていると考えられる。

図2 KR 鉱工業生産の推移



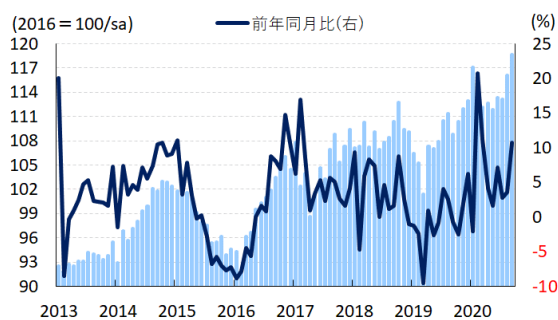
(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

### [台湾]～電子部品や電気機械関連など輸出財関連を中心に生産底入れの動きが一段と強まっている模様～

23日に発表された9月の鉱工業生産は前年同月比+10.73%となり、前月(同+3.60%)から伸びが加速した。前月比も+2.18%と前月(同+2.62%)から2ヶ月連続で拡大している上、中期的な基調も拡大傾向を強めるなど、新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)の感染収束を受けて経済活動の正常化が進

んでいるほか、米中摩擦の激化懸念によるサプライチェーンの見直しの動き、そして、世界経済の底打ち期待の高まりなどを反映した動きが続いている。鉱業部門や製造業部門など幅広い分野で生産が底入れしており、食料品や衣料品など軽工業関連で生産底入れの動きに一服感が出る動きがみられる一方、主力の輸出財である半導体や液晶をはじめとする電子部品関連のほか、電気機械関連、自動車をはじめとする輸送用機械及び部品関連などで生産拡大の動きが強まっており、鉱工業生産全体の押し上げに繋がっている。

図3 TW 鉱工業生産の推移

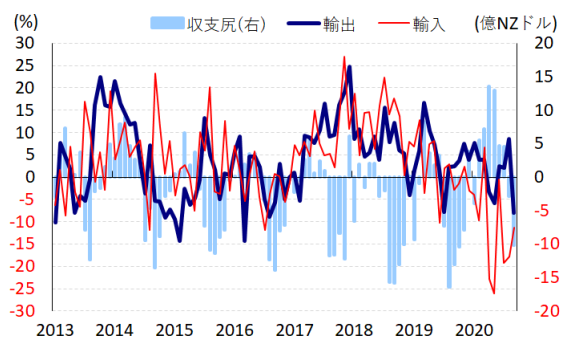


(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

#### [ニュージーランド]～経済活動再開や世界経済の回復期待を背景に底入れしてきた輸出の動きに一服感～

27日に発表された9月の輸出額は前年同月比▲8.0%となり、前月(同+8.6%)から4ヶ月ぶりに前年を下回る伸びに転じた。前月比は▲21.8%と前月(同+17.5%)から3ヶ月ぶりの減少に転じている上、中期的な基調も減少傾向に転じるなど、新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)の感染収束を受けた経済活動再開の動きに加え、世界経済の回復期待などを背景に底入れが進んだ流れに一服感が出ている。財別では、食肉関連や木製品関連などに堅調な動きがみられるものの、主力の輸出財である乳製品の輸出が大きく落ち込んだほか、原油や果物などの輸出が軒並み鈍化したことも輸出全体の重石になった。国・地域別でも、ASEANをはじめとするアジア新興国向けに底堅い動きがみられたものの、最大の輸出相手である中国向けや隣国豪州向けに下押し圧力が掛かったほか、米国やEU、日本など先進国向けが軒並み鈍化したことも輸出全体の足かせになっている。一方の輸入額は前年同月比▲11.4%と6ヶ月連続で前年を下回る伸びとなったものの、前月(同▲17.7%)からマイナス幅は縮小した。前月比も▲4.8%と前月(同+8.4%)から2ヶ月ぶりの減少に転じている上、中期的な基調も減少傾向で推移するなど頭打ちの状況が続いている。財別では、原油及び石油製品関連の輸入に底堅さがみられるものの、電気機械をはじめとする機械製品関連の輸入鈍化の動きが足かせになっている。結果、貿易収支は▲10.17億NZドルと前月(▲2.82億NZドル)から赤字幅が拡大した。

図4 NZ 貿易動向の推移

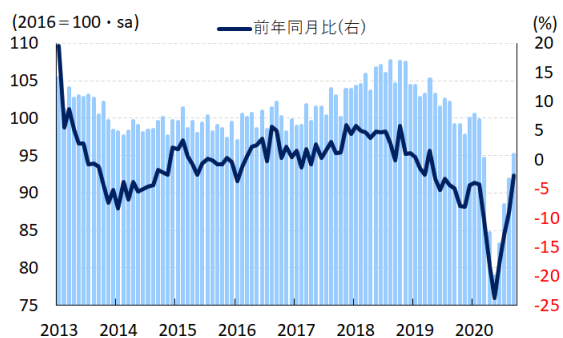


(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

### 【タイ】～主要な輸出財である自動車関連や電気機械関連を中心に生産活動底入れの動きが強まっている～

28日に発表された9月の製造業生産は前年同月比▲2.75%と17ヶ月連続で前年を下回る伸びとなったものの、前月(同▲9.05%)からマイナス幅は縮小した。前月比も+3.68%と前月(同+3.86%)から4ヶ月連続で拡大しており、中期的な基調も拡大傾向に転じるなど生産活動の底入れが進んでいる。財別では、主力の輸出財である自動車をはじめとする輸送用機器関連のほか、電気機械関連など機械製品関連を中心に生産拡大の動きが強まっているほか、新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)対応に関連して医薬品関連などでも生産が大きく拡大する動きがみられる。一方、石油製品などをはじめとする化学製品関連のほか、食料品や衣料品など軽工業品関連で生産が弱含むなど対照的な動きもみられるなど、分野ごとに跛行色が一段と強まっている様子が見えてくる。

図5 TH 製造業生産の推移



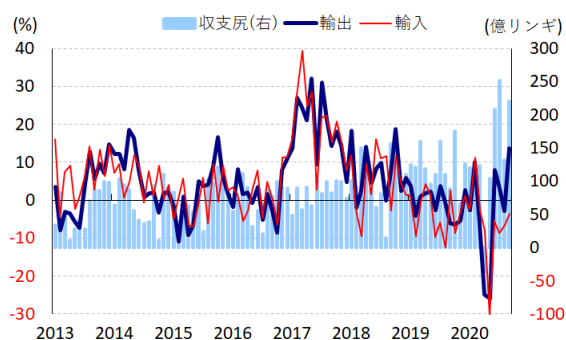
(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

### 【マレーシア】～経済活動の正常化や世界経済の回復期待を背景に輸出は急速に底入れの動きを強める～

28日に発表された9月の輸出額は前年同月比+13.6%となり、前月(同▲2.9%)から2ヶ月ぶりに前年を上回る伸びに転じた。前月比も2ヶ月ぶりの拡大に転じている上、中期的な基調も拡大傾向に転じるなど底入れが進んでおり、新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)の感染拡大の動きに一服感が出たことで経済活動の再開が進んでいることに加え、世界経済の回復期待も輸出の押し上げに繋がった。財別では、主力の輸出財である半導体をはじめとする電子部品関連や電気機械関連のみならず、原油及び天然ガスなどの鉱物資源関連、パーム油や天然ゴムなどの農産品など幅広い財で輸出が拡大傾向を強めて

いる。国・地域別でも、中国向けやASEAN周辺国向けのみならず、米国やEUなど先進国向け輸出の堅調さも押し上げに繋がった。一方の輸入額は前年同月比▲3.6%と7ヶ月連続で前年を下回る伸びとなったものの、前月（同▲6.5%）からマイナス幅は縮小した。前月比も2ヶ月ぶりの拡大に転じており、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど輸出同様に底入れの動きをみせている。鉱物資源関連の輸入に下押し圧力が掛かる一方、農産品関連や機械製品関連の輸入に底堅さが下支えしている。結果、貿易収支は+219.71億リンギと前月（+132.15億リンギ）から黒字幅が拡大した。

図6 MY 貿易動向の推移

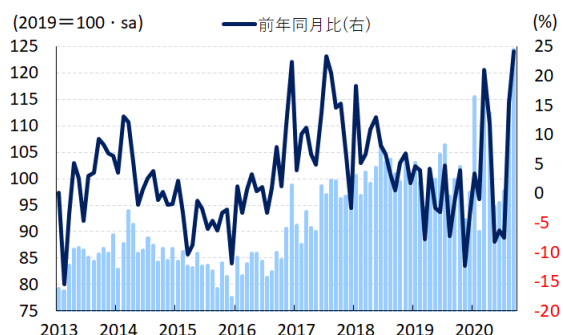


(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

#### [シンガポール]～バイオ・医薬品関連を中心に生産底入れの一方、世界経済の不透明感は足かせとなる動きも～

26日に発表された9月の鉱工業生産は前年同月比+24.2%となり、前月（同+15.4%）から伸びが加速した。前月比も+10.15%と前月（同+15.51%）から4ヶ月連続で拡大している上、中期的な基調も拡大傾向を強めており、新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）の感染収束を受けた経済活動の正常化の動きに加え、世界経済の回復期待も追い風に生産の底入れが進んでいる。なお、同国においてはバイオ・医薬品関連で月ごとの生産の振れ幅が大きい上、鉱工業生産全体の動向を左右する傾向がみられるなか、同月は前月比+69.79%と前月（同+100.09%）に続いて大幅に拡大しており、新型コロナウイルスに関連したワクチンなどの生産の動きが影響しているとみられる。よって、バイオ・医薬品関連を除いたベースでは前月比▲1.58%と前月（同+5.74%）から3ヶ月ぶりの減少に転じている上、中期的な基調も拡大傾向を維持するも、そのペースは鈍化するなど頭打ちの兆候がうかがえる。輸送用機械関連や一般機械関連などの生産に底堅い動きがみられるものの、主力の輸出財である電子部品関連のほか、化学製品関連の生産が鈍化して足を引っ張る動きがみられるなど、世界経済を巡る不透明感が高まっていることが生産の重石になっているとみられる。

図7 SG 鉱工業生産の推移

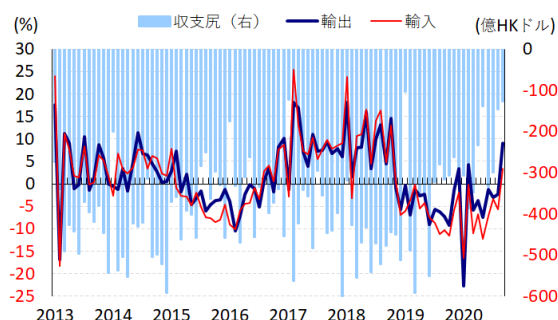


(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

### [香港]～中国本土景気の回復に加え、世界経済の回復期待の動きは輸出入双方を押し上げる展開に～

27日に発表された9月の輸出額は前年同月比+9.1%となり、前月(同▲2.3%)から7ヶ月ぶりに前年を上回る伸びとなった。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比も4ヶ月連続で拡大している上、中期的な基調も拡大傾向を強めており、中国本土経済の回復が進んでいることに加え、世界経済の回復期待の高まりも重なり底入れの動きが進んでいる。財別では、衣料品をはじめとする軽工業品関連の輸出は頭打ちする動きがみられる一方、電気機械や機械製品など製造業関連の輸出の堅調さが全体を押し上げる動きがみられる。国・地域別でも、中国本土向けが大きく拡大しているほか、米国やEU、日本など先進国向けのみならず、アジアをはじめとする新興国向けの底堅さも全体を押し上げている。一方の輸入額は前年同月比+3.4%となり、前月(同▲5.7%)から22ヶ月ぶりに前年を上回る伸びに転じた。前月比も2ヶ月ぶりの拡大に転じている上、中期的な基調も拡大傾向に転じるなど輸出が底入れの動きを強めていることに歩を併せる形で輸入も底打ちしている。米国からの輸入の動きに一服感が出ているものの、中国本土からの輸入は堅調に推移している上、日本やアジア新興国からの輸入の底堅さも押し上げに繋がっている。結果、貿易収支は▲126.94億HKドルと前月(▲146.26億HKドル)から赤字幅が縮小した。

図8 HK 貿易動向の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

以上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。